

「2018年の回顧と2019年の展望」

～ 成長への期待、変化への対応 ～

機械金属部会

植田 真五

2019年2月28日

目次

1. マクロ指標関連

2. セグメント別状況

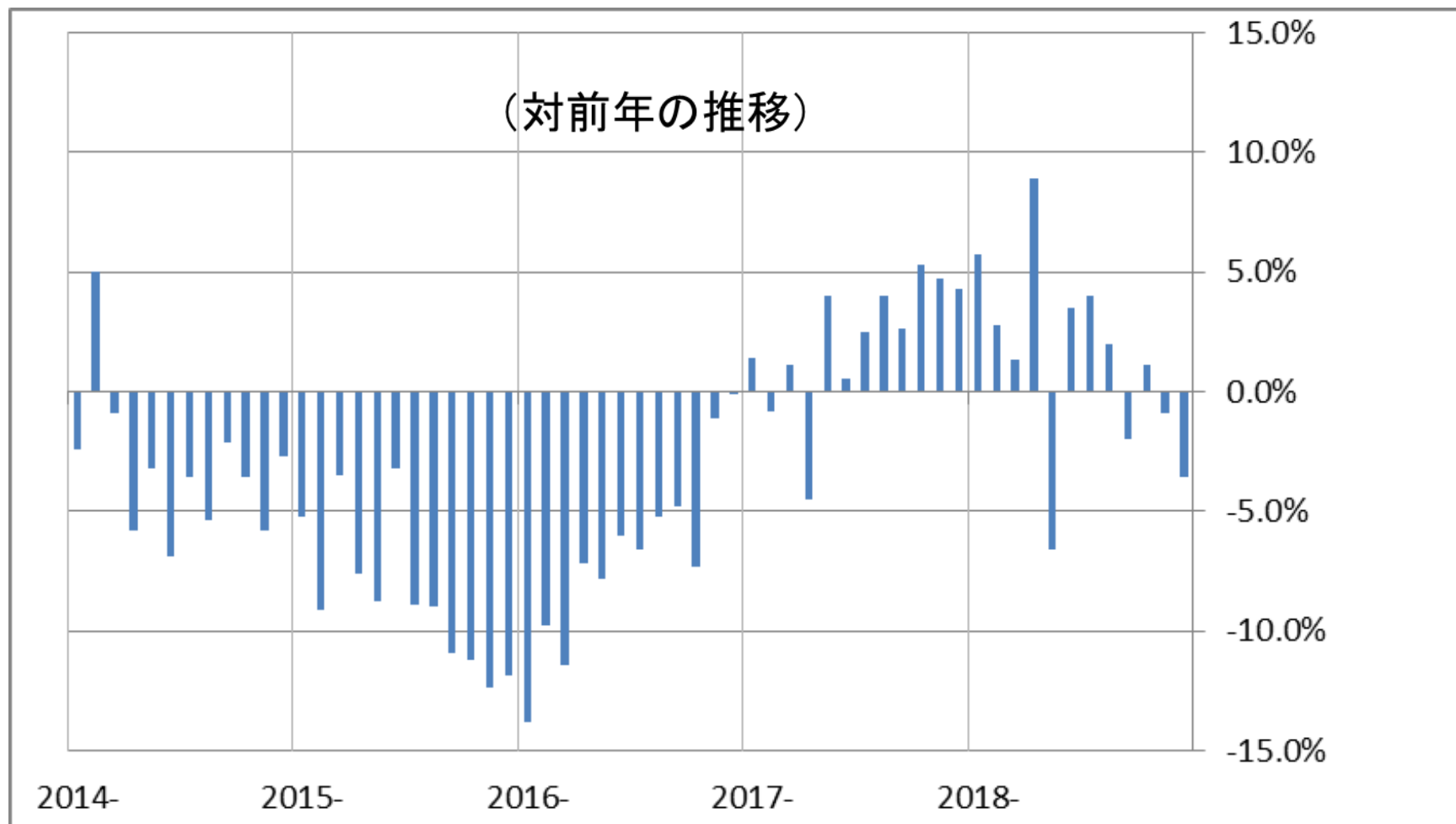
- (1) 鉄鋼
- (2) 電力
- (3) 建設機械
- (4) 自動車その他の産業関連
- (5) オイル&ガス、紙パルプ

3. 副題 成長への期待、変化への対応

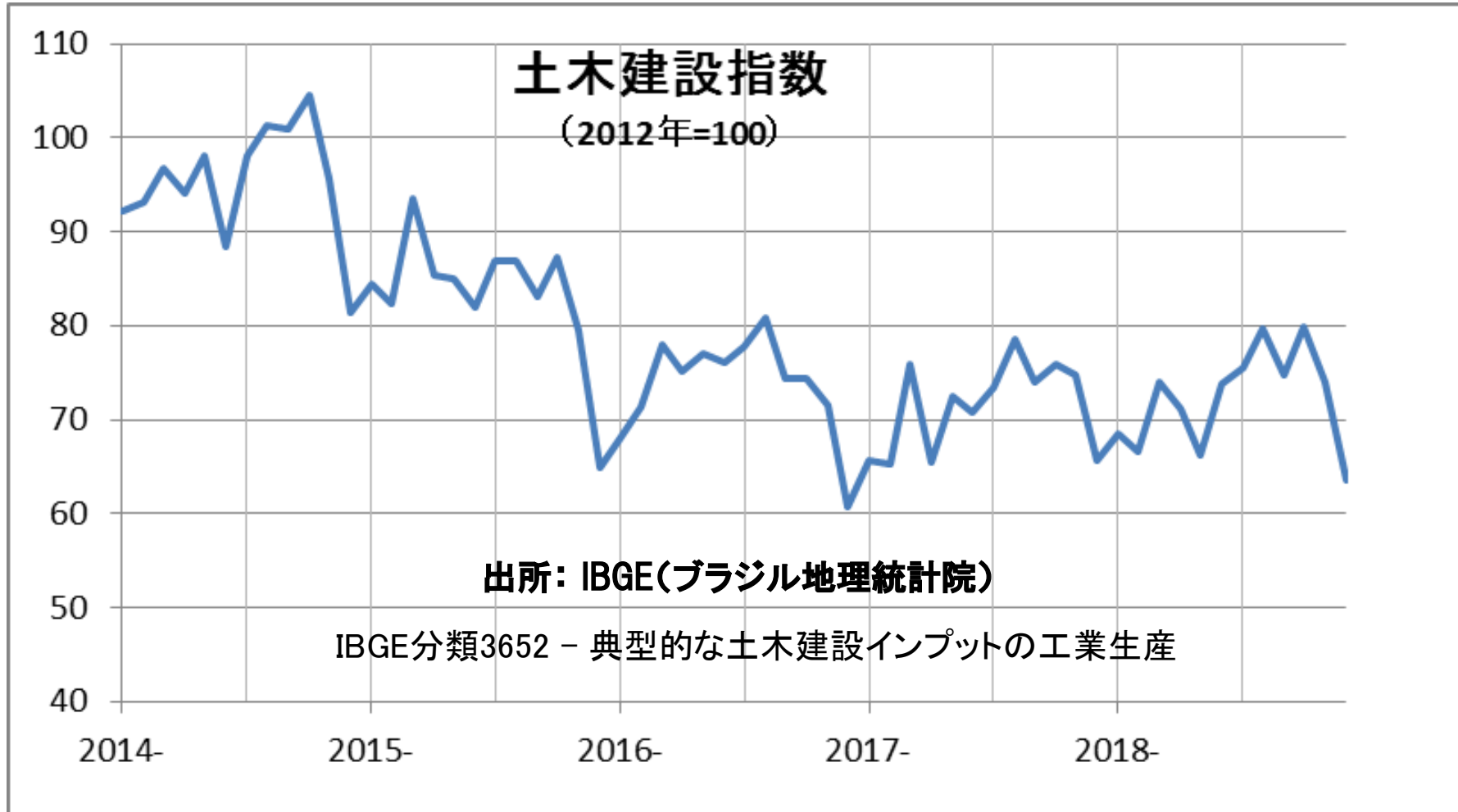
1. マクロ指標(1)

ブラジル鋳工業生産

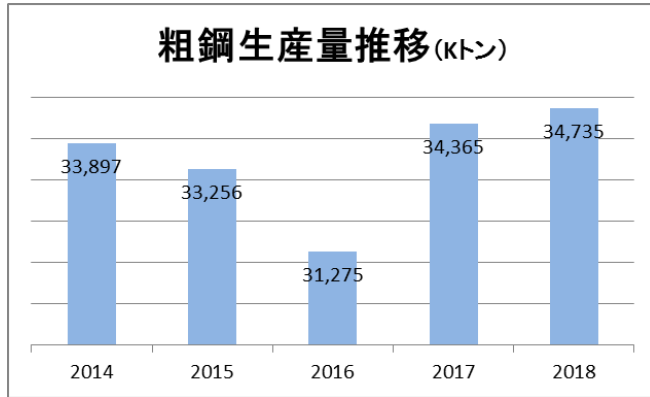
出所: IBGE(ブラジル地理統計院)



1. マクロ指標 (2)



2. セグメント別状況(1) 鉄鋼



2018年実績

数量: 千トン、前年同期比、ブラジル鉄鋼協会(IABr)

	生産		国内販売		輸出	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
粗鋼*	34,735	1.1%	18,281	8.2%	14,092	▲ 4.0%
圧延鋼板	14,210	3.8%	11,030	10.9%	2,648	▲ 19.1%
形鋼	8,936	2.4%	6,968	5.2%	1,871	▲ 2.1%
スラブ	8,911	3.4%	127	▲ 11.2%	9,573	0.8%
他	972	▲ 20.2%	156	▲ 15.7%		
					輸入	2,407 3.3%

*国内販売・輸出欄は合計

(注)輸出は国内ミルのみの統計

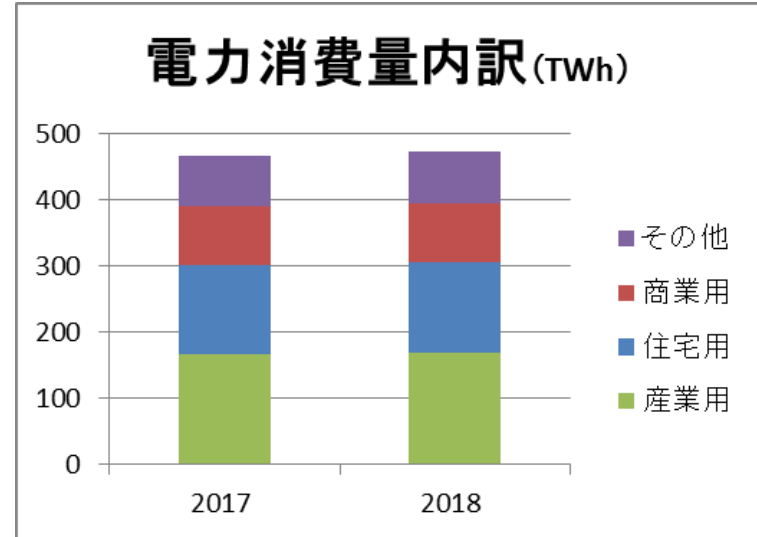
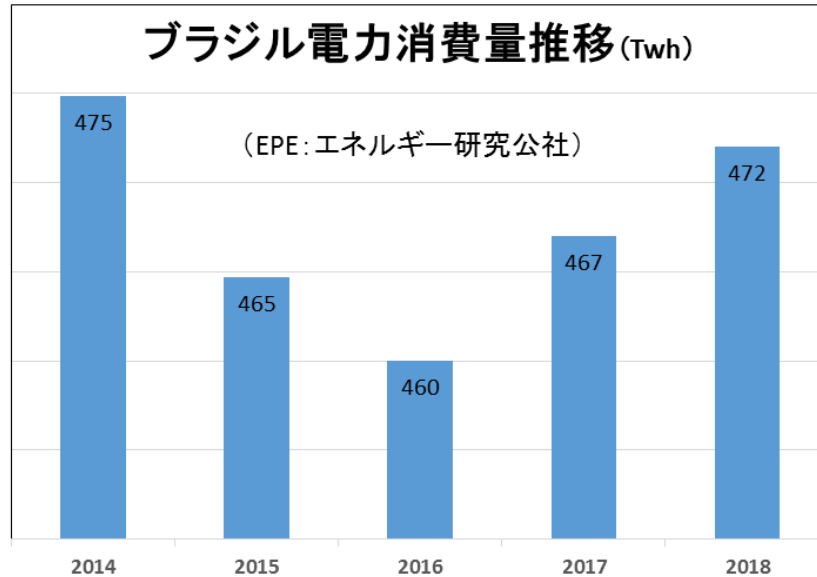
《2018年の回顧》

1. 生産 2017年に引き続き対前年比で増加するも、5月のトラック運転手ストの影響により、対前年比1.1%の微増に留まった。
2. 国内販売 自動車業界の回復等により、対前年比8.2%増加した。
3. 輸出 対前年比で4%の減少。
4. 輸入 国内景気回復により3.3%の増加。

《2019年の展望》

1. 景気回復のスピードは依然、緩やかなものとなり見通しである一方、自動車、機械・装置、建設部門向けの鋼材需要が回復に転じると予想される。
2. 一方、米国やEUの保護貿易措置に伴う影響が危惧される。

2. セグメント別状況(2) 電力



《2018年の回顧》

1. ブラジル電力消費は、2017年に前年を上回ったが、2018年においても対2017年比で1.1%増加し、過去最高の2013-2014年レベルに回復しつつある。
2. 電力オークションの結果、風力・太陽光が大半を占め、売電価格を大きく下げて増加している。

《2019年の展望》

1. エレトロブラスの民営化等に対する新政権の具体的取組はこれからであり、引き続き、状況を注視する必要がある。
2. 当部会関連企業が関係するバイオマス関連の新規案件の動きは、引き続き低調と見込まれる。

2. セグメント別状況(3) 建設機械



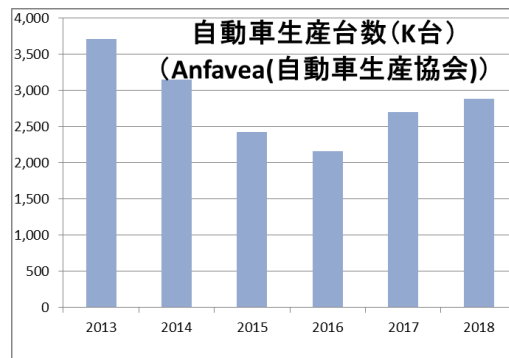
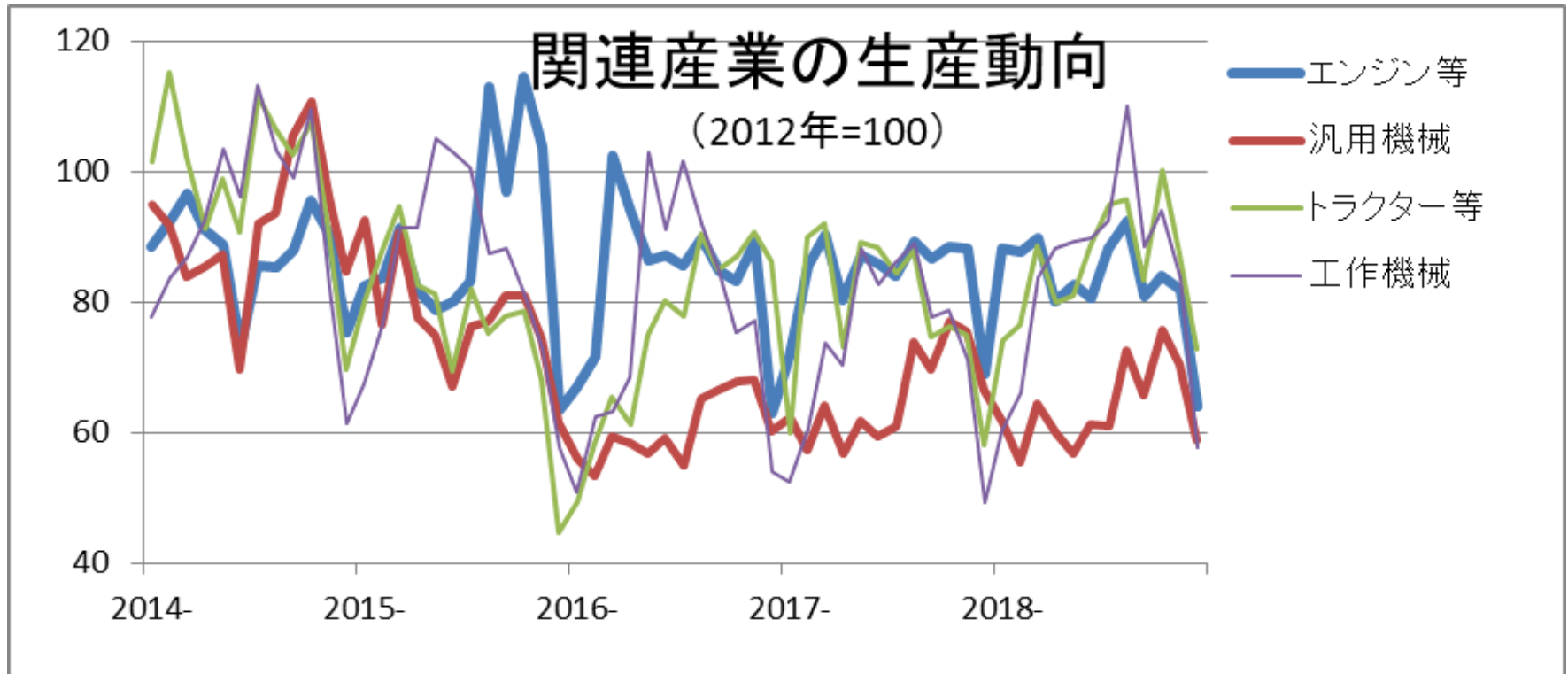
《2018年の回顧》

1. 建設機械の国内販売は、次の要因で前年比+47%と当初予想を大幅に上回った。
 - ① レンタルや農業向けが好調、② 選挙中から年末まで官公需が好調
 - ③ 建設需要が底を打った
2. 輸出についても、米国向けなどがアルゼンチン向けの減少を補い、前年比9%増加。

《2019年の展望》

1. 国内需要 レンタル関係は好調を維持する一方、官公需は落込みのリスクあり。
2. 輸出 米国経済の先行き懸念、米中貿易摩擦の悪影響の可能性から予断を許さない。

2. セグメント別状況(4) 自動車その他の産業関連①



28.1 エンジン、ポンプ、コンプレッサー、トランスミッション 機器の製造

28.2 他の汎用機械装置の製造

28.3 農業および家畜用トラクターおよび機械装置の製造

28.4 工作機械の製造 以上いずれもIBGE分類

2. セグメント別状況(4) 自動車その他の産業関連②

《切削工具》

主力ユーザーである自動車産業は、長いトンネルから抜け出し、回復傾向が鮮明化。農業、金型分野、航空機、医療分野も堅調に推移。以上の状況の中、切削工具の需要は2018年に引き続き、2019年も回復傾向が続く見通し。

《ベアリング》

自動車生産の状況と連動し、需要は回復傾向。ただし、アルゼンチン向けをはじめとした輸出に陰りが見え始める等、今後の不安要素あり。

《金属加工油剤、潤滑油》

市場環境は、ベアリングとほぼ同様の状況。油剤については、レアル安・原油高に伴う輸入原料の急上昇が課題。

《小型ディーゼルエンジン》

2018年は、トラック運転手ストの影響で一か月弱分の販売を逃した形となった。2019年については、輸送車両用の冷凍ユニット向け、農作業機メーカー向けの日本製多気筒エンジンを中心に、回復傾向が続く見込み。

2. セグメント別状況(4) 自動車その他の産業関連③

《トラクター》

2018年は前年同期+105%で、2年連続の増加。

2019年は、昨年並みか若干上回る見通しであるが、最大の輸出先である中国の経済動向等を注視する必要がある。

《ポンプ》

2018年は農業・一般産業向けが好調であり、対前年で増加の見込み。

2019年についても、新規設備投資や省エネ目的による設備更新により、回復基調を期待。

《プラント向け制御機器等》

2018年は、GDPプラス成長を背景に、ここ数年低調であった石油・石油化学・紙パルプ鉄鋼等の業種で、現状設備の更新需要が増加した。

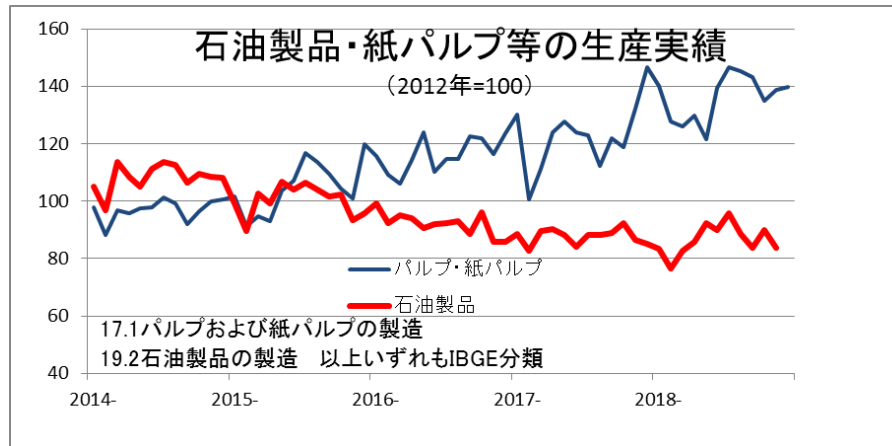
また、石油・ガスの上流工程、紙パルプ業種においても新規投資需要が増加。

2019年についても、回復傾向が続く見込みであるが、特に製鉄業界においては、会社によって対応が大きく異なっている。

《移動式クレーン、レーザー切断機》

依然として厳しい状況が続いており、2019年は種まきの時期との認識。

2. セグメント別状況(5) オイル&ガス・紙パルプ



《オイル・ガスマーケット》

2018年は、ペトロbras社がコア事業の石油・天然ガス開発、生産に資本を集中する中、GDPプラス成長、年始からの原油価格上昇を追い風に、FPSO新規建設への期待感が高まった。

一方、内需に関わる下流の石油化学は、投資縮小傾向。

2019年は、昨年末に発表されたペトロbras社の5カ年計画で、年3隻のFPSO建設が含まれる等、期待感はある。ただし、2018年末からの原油安の影響等もあり、予断は許さない状況。

《紙パルプ》

2018年は、トラック運転手ストの一時的影響はあったが、パルプ需要拡大で生産・輸出ともに対前年で増加。

また、業界再編の動きもあったが、後半年からインフラ投資が動き出している。2019年については、紙パルプ大手が中規模プラントの計画を発表している。

1. 期待要素とポテンシャル

- ・より鮮明な経済の回復、民間主導・貿易拡大政策
- ・ブラジルの一人当り鋼材消費量は依然低位、ペトロブラスの設備投資計画増加等

2. 不安要素

- ・各種変革や規制緩和には、時間がかかる。
- ・新政権の実力は、まだ未知数。
- ・インフラ・建設市場の本格回復は、2020年以降か。
- ・アルゼンチン等、ブラジル国外の景気動向、米国等の保護貿易。

3. 変化への対応

- ・今年には政府の力量含め、その成り行きを見極める年。
- ・不安要素に伴う、ネガティブサプライズに備えた取組を継続。
- ・景気変動に関わらず、持続的に成長、利益を出し続ける強固な企業体質を構築(積極的な人材投資、生産性向上と教育によるモノ造り強化等)

ご清聴ありがとうございました。

Obrigado!